

捕獲等事業評価シート
(ニホンジカ：県中部区域)

(千葉県環境生活部自然保護課)

評価シート（ニホンジカ：県中部区域）

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■事業概要

事業実施地域	県中部地域
事業主体	千葉県 環境生活部 自然保護課
事業実施期間	令和7年6月16日～令和8年1月16日 (うち、捕獲作業期間は100日程度とし、集中的に捕獲を実施する時期を設ける。)
捕獲手法	くくりわな、銃(止めさしに限る)
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	19,715,500 円(※)

(※) 捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

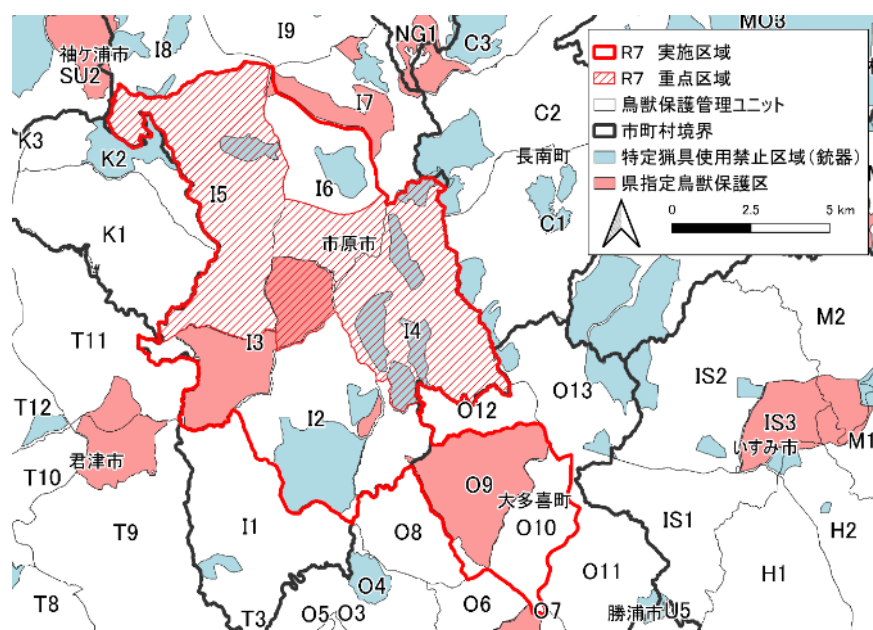


図1 シカの指定管理事業実施区域（県中部地域）

■事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	合計 110 頭	くくりわな：185 頭	捕獲目標の達成率は168%で、平成 27 年度以降最高の実績となった。
捕獲作業量	100 日間程度の期間で捕獲を実施（100 カ所程度） (前年度事業の実績) くくりわな：22,551 わな日	くくりわな：21,014 わな日	前年度より 1500 わな日程度少ない作業量を投じた。
効率的な捕獲	予定なし (前年度事業の実績) くくりわな CPUE:6.43 ※CPUE：(捕獲数/わな日) ×1000 で算出	くくりわな CPUE:8.80 ※CPUE：(捕獲数/わな日) ×1000 で算出	令和 7 年度の CPUE は、前年度を大きく上回り、効率的な捕獲を実施することができた。特に、10 月の捕獲数及び CPUE が突出した。
事業に要した人員数	予定なし	計 952 人日	従事者 1 人当たりの捕獲数は 0.19 頭であった。
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業計画として提出した。	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	安全に予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業計画に記載したとおり、実施区域の関係者と協議の上、埋設や焼却等適切に処理した。	提出した計画に沿って作業を行った。獣による掘り起こし等は発生しなかった。	予定通りの計画で事業は遂行された。
環境への影響への配慮	・ 非鉛製銃弾を使用 ・ 錯誤捕獲防止用わなを	・ 非鉛製銃弾を使用 ・ 錯誤捕獲防止用わなを	予定通りの計画で事業は遂行された。

評価項目	当初予定	実績	評価
	使用	使用	
捕獲個体の属性	予定なし (前年度事業の実績) 成獣メス 37 頭(25.5%) 成獣オス 68 頭(46.9%) 幼獣メス 34 頭(23.4%) 幼獣オス 6 頭(4.1%) ※()内の数値は、合計捕獲数に対する割合	成獣メス 77 頭(41.6%) 成獣オス 88 頭(47.6%) 幼獣メス 17 頭(9.2%) 幼獣オス 3 頭(1.6%) ※()内の数値は、合計捕獲数に対する割合	前年度よりもメスの割合が大幅に増えたことから、個体数抑制の効果が期待される。

表1 年度別のわな捕獲の作業及び捕獲状況(県中部地域)

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
わな数	65	120	120	160	160	200	210	297	200	237	200
わな日	1,936	10,878	10,278	16,646	16,078	25,046	21,582	22,356	20,643	22,551	21,014
空はじき	0	102	38	180	148	134	459	542	440	401	189
空はじき率	0.00	9.38	3.70	10.81	9.21	5.35	21.27	24.24	21.31	17.78	0.90
目標捕獲頭数	-	20	24	55	60	120	100	100	100	100	110
捕獲数	4	47	17	61	79	140	107	119	155	145	185
成獣メス割合(%)	25.0	34.0	52.9	27.9	19.0	35.7	34.6	38.7	17.4	25.5	41.6
幼獣割合(%)	0.0	19.1	0.0	13.1	21.5	14.3	14.0	21.0	55.5	27.6	10.8
CPUE	2.07	4.32	1.65	3.66	4.91	5.59	4.96	5.32	7.51	6.43	8.80

※わな日はわな数×わな稼働日数により算出

※CPUEは(捕獲数/わな日)×1000、空はじき率は(空はじき/わな日)×1000

※平成27年度は目標捕獲数の設定なし

※平成27-28年度は主に冬期、平成29年度以降は夏期から秋期にかけて捕獲を実施

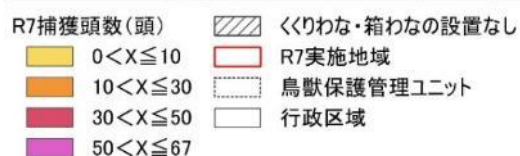
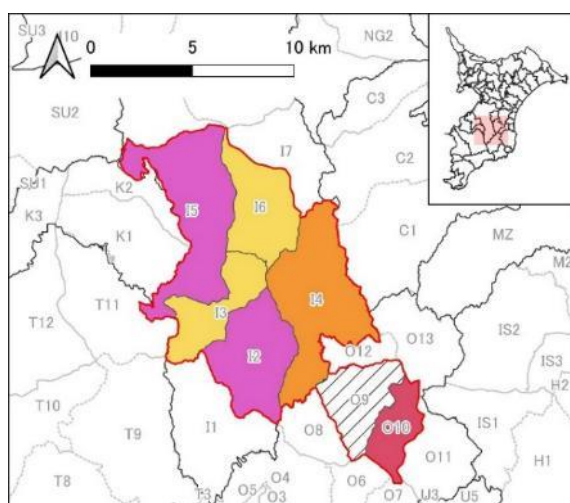


図 1 ユニットごとの捕獲数

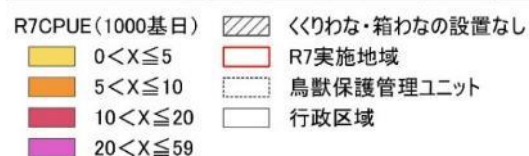
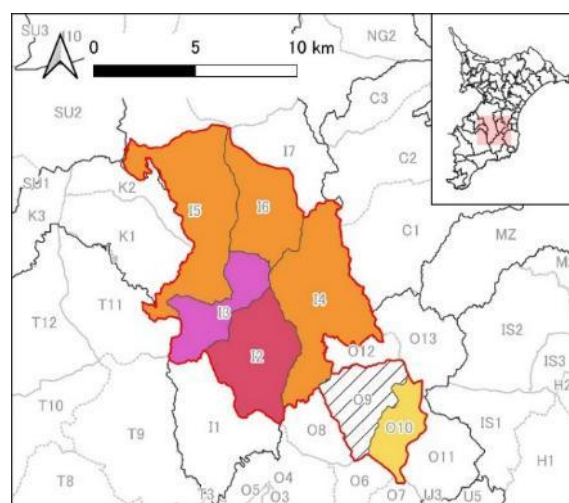


図 2 ユニットごとの CPUE (くくりわな)

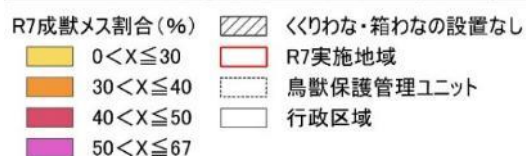
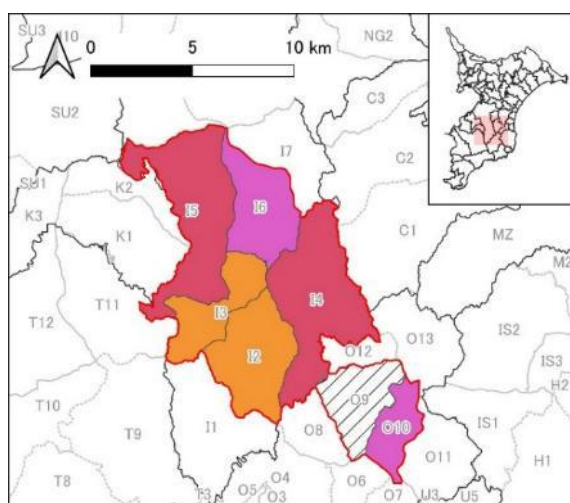


図 3 ユニットごとの成獣メス割合

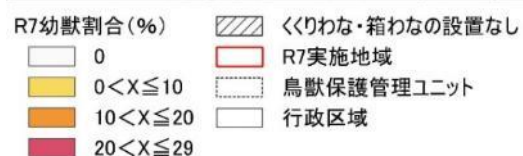
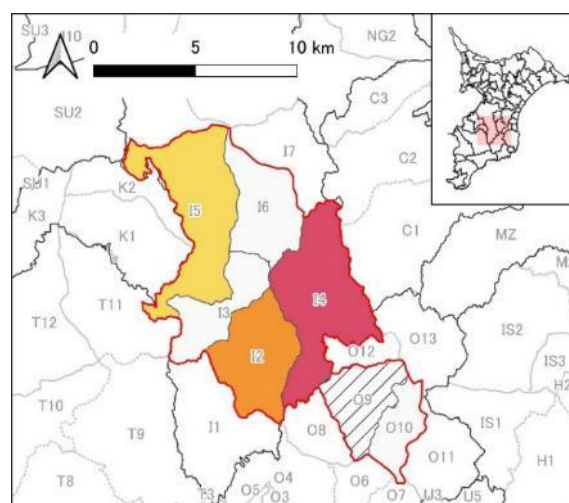


図 4 ユニットごとの幼獣割合

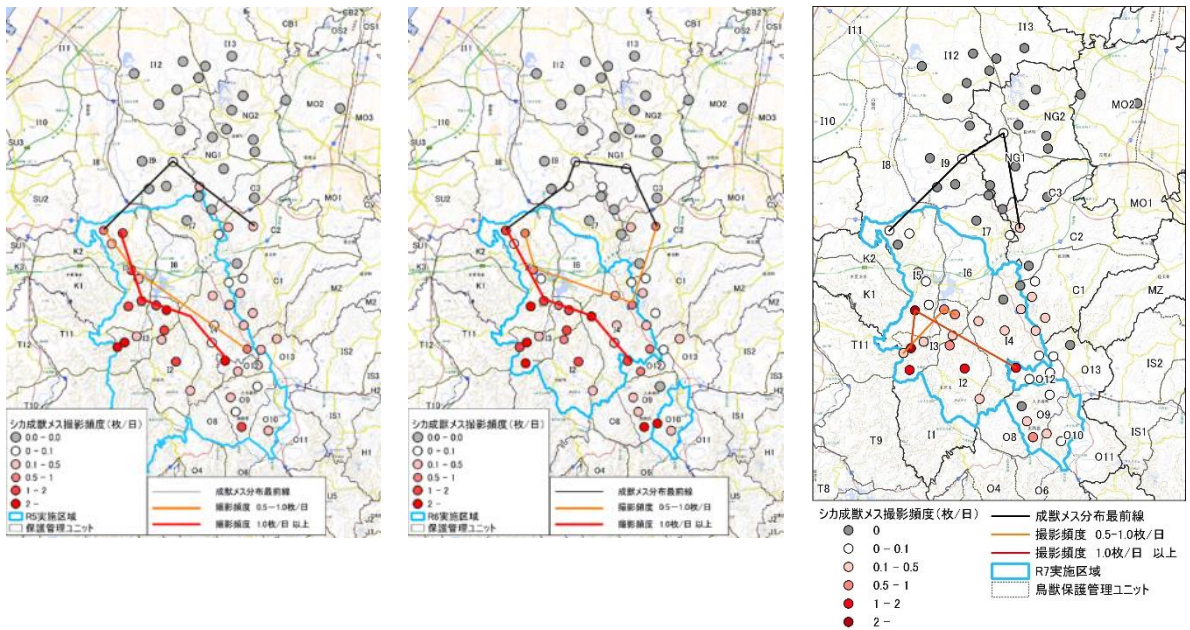
STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■事業実施地域

県中部区域

■ 出沒（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは 事業開始時・前半	県中部区域では、シカの分布拡大防止を目的として捕獲が実施されている。 本事業では令和5年度以降、県中部地域の北部（前線部）にカメラを設置し、シカの分布動向をモニタリングしている。 評価にあたり、カメラ調査において成獣メスが確認された地点を「シカの定着確認地点」と定義し、この定着地点が実施地域の北側に向かって広がることを、本事業における「分布拡大」と定義し、評価を行った。
事業実施後もしくは 事業終盤・後半	ただし、分布域は年変動を伴うため、シカの分布前線の進退については単年ではなく複数年の傾向を確認した。 ●モニタリング方法 自動撮影カメラ調査 ⇒成獣メスの撮影状況を可視化し、分布拡大状況を評価。 ●結果 令和6年は成獣メスの定着地点の北上がユニット NG1 でみられ、令和7年は同様のユニットでさらに北側のカメラで成獣メスが撮影された。
評価	令和5年から令和7年にかけて、シカの分布が徐々に拡大している可能性が考えられることから、引き続き前線の進退については注視する必要がある。



令和 5 年

令和 6 年

令和 7 年

※性別・年齢は、判定者によって識別に差異がある可能性がある

図 5 令和 5 年～令和 7 年の成メスの撮影頻度

■被害

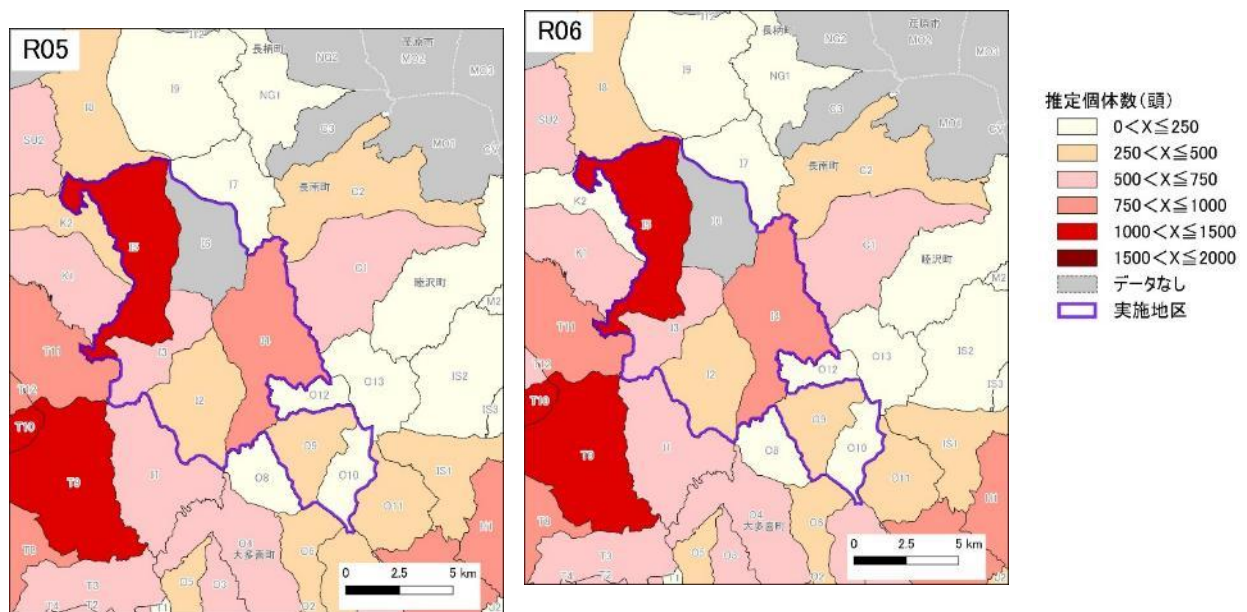
評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	—
事業実施後もしくは事業終盤・後半	—
評価	—

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■捕獲等事業に関する評価及び改善点（STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。）

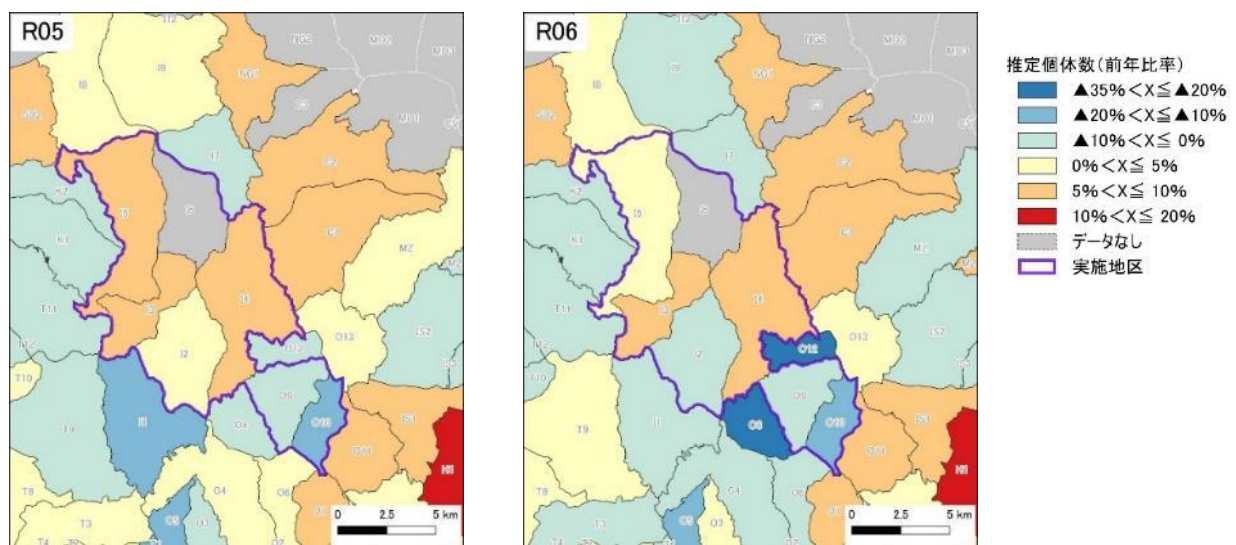
1. 捕獲に関する評価及び改善点									
【目標設定】	評価：捕獲目標 110 頭に対して捕獲実績は 185 頭であり、捕獲目標を達成した。								
	改善点：次期計画では、今年度の捕獲実績や生息状況調査を参考に捕獲目標を設定するが、外縁部に近い場所での捕獲圧を高めるように工夫する必要がある。								
【実施期間】	評価：100 日程度で捕獲作業を行う想定の中、7 月～11 月の期間にかけて 110 日の捕獲作業を実施し、捕獲目標を達成した。								
	改善点：捕獲目標を達成するために必要な実施期間を設けて引き続き適切に期間を設定する。								
【実施位置】	評価：ニホンジカの生息域の外縁部に実施区域が設けられており、分布拡大を防止するために有効である地域で捕獲が実施されたと考えられる。								
	改善点：ニホンジカの生息状況を勘案し、引き続き適切に区域を設定するとともに、外縁部の生息密度を低減するよう、重点的に捕獲を実施する区域を設定する必要がある。								
【捕獲手法】	評価：くくりわな 200 基を用いて捕獲を実施した。機動性の高いくくりわなを用い、適宜移設することで目標捕獲数を達成した。捕獲効率（CPUE）は過去の事業と比較しても高かったことから、効果的に捕獲を行うことができた。								
	改善点：引き続き適切な手法を選定するとともに、成獣の捕獲数を伸ばし、かつメスの割合が高くなるように工夫する必要がある。								
【捕獲コスト】	評価：令和 7 年度における捕獲の事業費は昨年度と同程度であったが、捕獲数が伸びたことで 1 頭当たりの捕獲コストを低く抑えることができた。 （1 頭当たりの捕獲コスト） <table> <tr> <td>令和 4 年度</td><td>141,832 円</td></tr> <tr> <td>令和 5 年度</td><td>108,890 円</td></tr> <tr> <td>令和 6 年度</td><td>131,134 円</td></tr> <tr> <td>令和 7 年度</td><td>106,570 円</td></tr> </table>	令和 4 年度	141,832 円	令和 5 年度	108,890 円	令和 6 年度	131,134 円	令和 7 年度	106,570 円
令和 4 年度	141,832 円								
令和 5 年度	108,890 円								
令和 6 年度	131,134 円								
令和 7 年度	106,570 円								

	改善点：特になし
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：市原市で2地区、大多喜町で1地区の3班体制で実施した。捕獲規模に対し、十分な体制で実施した。
	改善点：引き続き必要な実施体制を確保する。
【個体処分】	評価：埋設、自家消費により適切に処分した。
	改善点：引き続き適切に処分する。
【環境配慮】	評価：周囲からの苦情もなく適切に実施した。
	改善点：引き続き環境に配慮して実施する。
【安全管理】	評価：わなの設置及び巡回は2名以上で1組体制とし、わな本体及び周辺に注意喚起の看板を設置することで、捕獲作業者及び実施区域周辺の利用者の安全に配慮し、無事故で作業を完了した。
	改善点：引き続き安全管理に配慮して実施する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
各事項への配慮は適切だった。引き続き、事業を適切に実施する。	
4. 全体評価	
本事業区域では、シカの生息域の拡大防止を目的として、生息域の外縁部において捕獲を行った。 - 令和7年度は、目標捕獲数を大きく上回った。CPUEが前年度より大きく向上したことに加え、成獣メスの割合は4割以上に達した。以上のことから、令和7年度は効率的な捕獲が実施できたと評価される。 - 令和5年から令和7年にかけての自動撮影カメラによるモニタリングでは、成獣メスの撮影地点が北上していることから、シカの分布が徐々に拡大している可能性がある。 - 加えて、令和5年度から令和6年度にかけてのシカの推定個体数に明確な減少傾向は認められず、捕獲数は増加傾向で、CPUEの減少も見られない現状を加味すると、今後も前線部において捕獲圧をかけ続けることが重要と考える。	



※ 実施区域の範囲は R07 実施計画に基づくため、参考

図 6 推定個体数の推移 (令和 5 年度～令和 6 年度)

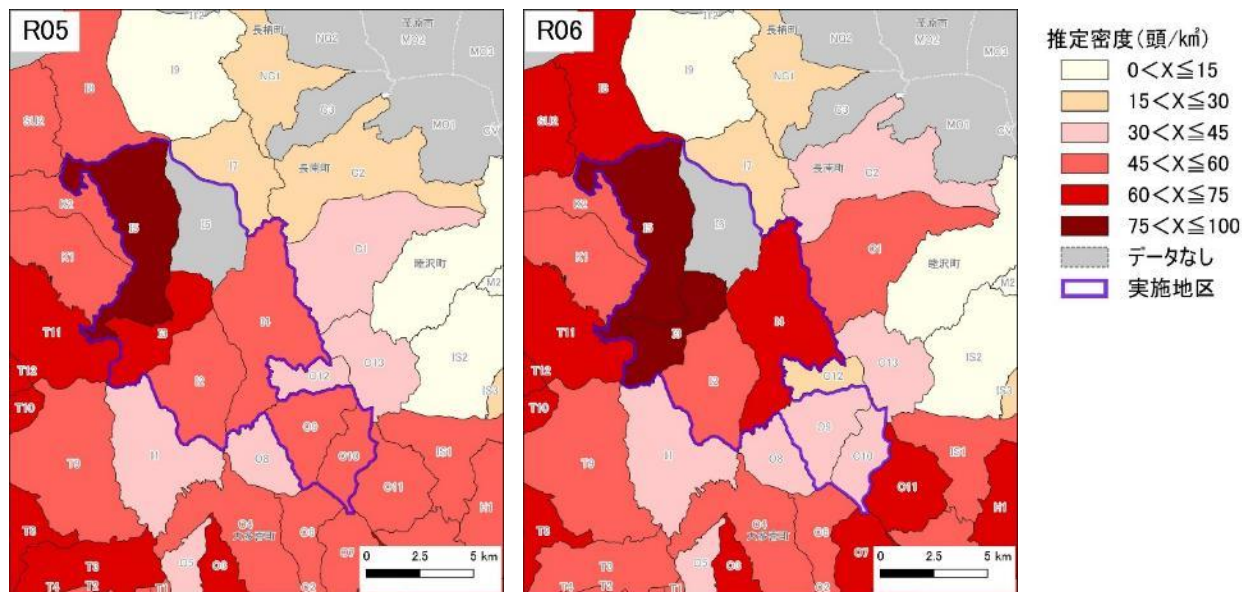


R4 及び R5 比較

R5 及び R6 比較

※実施区域の範囲は R07 実施計画に基づくため、参考

図 7 推定個体数 (前年比率) の推移 (令和 5 年度～令和 6 年度)



※1 実施区域の範囲はR07実施計画に基づくため、参考

※2 推定密度は、推定個体数を各ユニットの森林面積で除して算出

図8 推定密度の推移（令和5年度～令和6年度）

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法			
特定鳥獣保護・管理計画の目標	(1) 中長期的な目標 ○ニホンジカ地域個体群の適正規模への抑制及び安定的な維持 コアエリア：3～7 頭/㎢ 共生エリア：3 頭以下/㎢ 両エリア以外：生息数の低減と分布域の縮小 ○生態系被害の軽減 植生回復の実施目標			
	調査地点数	目標達成状況の指標	現状	目標 2031 年度末
	62 地点	①低木本数の維持	36.8 (本/80 ㎡)	36.8 (本/80 ㎡)
		②林床植生の回復地点数 (植被率 10%以上増加)	13 地点	31 地点 (全地点の半数)

	(2) 短期的な目標 ○個体数管理 令和8年度末までに、ニホンジカの個体数を減少傾向にする 捕獲目標：8,500頭以上/年度 ○農林業被害の軽減 減少傾向を維持
寄与状況の評価	特定計画では、ニホンジカ地域個体群の適正規模への抑制及び安定的な維持、農林業被害の軽減、生態系への影響の軽減を目標とし、管理ユニット毎に設定した目標密度を目指して個体数管理を実施している。 自動撮影カメラによる分布調査で広い範囲で成獣メスが確認されたことから、分布外縁部における当該地においてニホンジカが繁殖及び定着しており、捕獲の重要性が示唆された。 しかし、当該地では他の捕獲（被害防止の目的での捕獲、狩猟）があまり実施されていないことから、特定計画の目標であるニホンジカの分布拡大防止及び個体数低減を図る上では、分布外縁部において捕獲を行う本事業が果たす役割は大きいと考えられる。